トラベル懇話会NZ研修 2025/5/14～20 7日間

レポート:(株)MATCH 松宮

参加メンバー21名

A班5日間12名

大島 秀崇/清宮 学/中鉢 真輔/山田 仁二/高橋 誠一/田上 睦深/船岡 千晶/古澤 徹/六反隆徳
/藤崎祐/明石茂樹/岡崎竜也

B班7日間9名

百木田 康二/橋本 肇/美甘 小竹/勅使河原 晃子/戸井川 裕美子/松本 晃/松重 良明/川嶋 泉/
松宮 英範

今回、17名が初ニュージーランド(以下NZと記す)

手配会社:ユー・ティー・アイ・ジャパン(松本社長が同行)

写真は、下記WEB上に格納してあるので、自由に参照されたい

https://drive.google.com/drive/folders/1Mz9wcS0MJLhTqjYxvZirIXeJ9o8Aitk?usp=drive_link

<事前準備:持ち物(服装)>

日本は初夏だが、南半球は逆の季節である。行程にトレッキングと氷点下の星空鑑賞もあり、洋服選びに悩む。重ね着するしかないので、ヒートテックや薄いユニクロダウン、ウインドブレーカーで調整するのが良さそう。トレッキングシューズを入れてしまったので、重量は24.5キロになってしまい(成田での計測値)、毎回heavyのタグを付けられ、いい気持ちはしない。スーツケース1つは23キロまでだが、Cクラスは32キロを超えない限り、エクセスチャージはないらしい。Y・PYクラスは、23.9まで大丈夫で24キロちょうどから超過料金となる(NZの現地ガイド情報)。日本は24度と暑いので、私は、Tシャツに革ジャン羽織って出発した。初日と最終日はスーツを着用と、旅行会社時代の初添乗で教わったのが懐かしい。

<事前準備・入国>

2つ必要

①72時間前までにアプリまたはWEBでニュージーランドの入国申請「NZeTA(電子渡航認証)の取得」<英語のみ>を行う

②24時間前からWEBで「NZTD(ニュージーランド渡航申告/税関申請)」<日本語あり>を行う。アプリなし、WEBのみ/参加メンバーでもある日本橋夢屋さんのHPが詳しい。

<1日目:2025年5月14日(水)>

集合

17:30 成田第一ターミナル南ウイングBカウンター前

チェックイン

自動チェックイン機はあるも、バゲージクレームが出なくて、結局、カウンターに並ぶので、最初からカウンターに並べば良い。

マイレージ

NZはスタアラでANA貯まる

ラウンジ

今回は、3つ使用できる

一番近いのはANAラウンジ、ゲート近くはTKラウンジ、間にあるUAラウンジ

ANAへ行くも、大混雑

特にシャワーは何と60～100分待ち(ブースは10個もあるのに・・・)

(ラウンジ入って、自動の機械で予約取る/ANAアプリでもできるとあるが、NZでも可能なのか不明?)

食事はスンドルバーなどあり、座席からモバイルオーダーできるも、カウンターまで取りに行く形式

朝からフルに働いてきたので、シャワーを浴びたいがANAでは間に合いそうもない。

ラウンジのハシゴをしてみた。かなり遠いゲートであるが、その近くのゲート近くのTKラウンジへ。

少々狭いが高級感あり。シャワーブースは3つ、待ち時間は30分でギリギリ使えた。

バスタオル・スリッパ・歯ブラシ・ドライヤー・アメニティ全て完備。

NZ航空(NZ-090便)

14MAY NRT/AKL 20:00/09:25+1 所要 10 時間 25 分 機材 B777-300ER

3クラス、Fなし、Cは斜めに配置のシェルタイプでかなり狭まく感じる

時差

3時間プラス(サマータイムは4時間)

バゲージ

オークランド着後、クライストチャートへの国内線乗り換えがある。ボーディングは成田でもらえるがバゲージはオークランドまでなので、国内線乗り換え前に、一旦バゲージを取り出す必要あり。

機内フリーWIFI

全クラス無料

LINEやメールは問題なし、写真も送れる

HPも遅いけど閲覧可能

ただし、PCはネット接続不可だった

Cクラスサービス

ワイドモニター、大型ヘッドフォン、スリッパ、アメニティ(木の歯ブラシ、耳栓、靴下、ハンドクリーム)

は、紙の袋でエコ仕様、ポケットや置き場所は少ない、コンセントはUSBとプラグの2つ(Aも利用可)
夕食・朝食ともに、和食もチョイス可能、サービスはかなり、ゆっくりで時間かかる
テーブルクロスをかけ、セッティング、1品ずつ丁寧に運ばれる
メインのステーキは、なかなかの大きさと美しい飾り付け
ワインはワゴンで白2種類、赤2種類からチョイス、もちぞん、NZワインで美味

ベッドメイキングは、CAがしてくれる
フルフラットで狭いが、マットレスが厚く、寝心地は悪くない
日本時間の3時30分には明るくなって起こされる
食事サービスが終わったのが23時なので、24時に横になり、仮眠をとっただけ、微妙なフライト時間で、ラウンジで食事を取り、ずっと眠っている達人がいたが、それが正解かもしれない。

窓側の席は、窓を背にしている斜めの配置なので、外の景色を楽しむのは難しい、首が痛くなる。

ニュージーランド概要

南島と北島からなる。人口520万人で思ったより少ない。二大政党で先住民マウリの党もあり、キャスティングボードを握る。

ニュージーランド気温

南半球なので、日本と季節は逆。5月は秋、これから冬へと移る。北島が暖かく、南島が寒い。また南風が吹くと寒い。太陽も東から上がり、北向きで西へ落ちるので、日当たりがいいのは、北向きとなる。桜並木も9月に咲き誇るらしく、面白い。違いを感じるのが旅の醍醐味である。

<2日目:2025年5月15日(木)>

スケジュール

オークランド着後、入国

国際線ターミナル内の和食レストラン(Hayama)にて軽昼食

食後、専用バスで国内線ターミナルへ

※空港にてニュージーランド観光局(本局)代表より歓迎スピーチ

航空機にて一路クライストチャーチへ

着後、クライストチャーチ市内観光。

夕食は、クライストチャーチ観光局との交流会

クライストチャーチ泊

宿泊ホテル：ディステインクション・クライストチャーチ(クラシックルーム)

9時過ぎ、少し早く到着。到着後、荷物を取って入国審査。まず、無人の審査機でパスポートをスキャンその後、有人のパスポートコントロールへ。税関申告を事前にWEBでしていると黄色のシールをパスポートに貼ってくれ、エクスプレスレーンに進める。事前申告していない場合は、最初の機械で滞在期間

など質問され、税関申告も遠回りになるが、さほど手間でもなさそう。

入国した後、国内線の無人機で荷物預け。現地スタッフのマークMR(黒田)と北島ガイドの村上MSが出迎えてくれ、2人の案内で荷物預け。成田でもらったボーディングをスキャンして自動機械で預ける*クライストチャーチから帰国する時などは、クライストチャーチで出国でき、荷物もスルーで行くマークさんは、この後、添乗員として、ツアーに全日程同行して頂き、大変お世話になった。マークはニックネームで神奈川出身の日本人。普段は、オークランドで手配を行い、日本にもセールスで訪れるという。NZ滞在20年というベテランスタッフで深い知識と活動的なスタイルで、我々の快適な旅の案内人である。トラベル懇話会の研修旅行では、現地スタッフやガイドの質が素晴らしく、彼らのお陰で様々な情報を得られて素晴らしい。

この時、両替も行う

1ドル=101円！5000円で49.43ニュージーランドドルぽっち・・70、80円のイメージだったが、ここも円安は進んでいる。買い物はどこもクレカ可能で、ツアー中の飲み物も、ビール&白・赤ワインは研修費用に含まれているので、基本現金は必要ないものの、両替しないと旅に出た気がしないので、体験しておく。

国内線の待ち時間を利用して、フードコートで日本食で、早い寿司ランチ(和食レストランHayama)機内で朝食食べたばかりで、残したが、サーモンやアボカドは美味しい。

専用バスに乗り換え、国内線ターミナルへ(歩けないほどではないが、結構遠い)

オークランド観光局の方と、現地オペレーター社長が出迎えてくれ、バスの中で歓迎の意を頂く。

*2名ほど、バスに乗らず、国内線へ歩いてしまう参加者がいた<団体は常にはぐれるリスクあり>空港前で観光局スタッフと記念撮影

オークランドの天気は17度で、爽やかな気持ちのいい気候。朝晩は10度を切り寒いとのこと

紫外線が強く、太陽光が眩しい

NZは、冬時は日本の紫外線3倍、夏は7倍にもなるという。日焼け止めとサングラスが必須。

北島ガイドの村上MSの短い時間ながら歯切れの良い説明あり

彼女は普段、大型バスを運転しながらガイドするドライバーガイドというから驚きである

NZ-539 15MAY AKL/CHC 12:00/13:25 所要 1 時間 25 分 機材 A320-200

1クラス。革張りで座り心地は良い。飲み物(珈琲または紅茶または水のみ)とスナックが提供される。

到着後、南島ガイド かわばたやすこMS が出迎え。

彼女もガイドング力が素晴らしかった。聞きやすい話はアナウンサーのよう。アメリカではセドナのガイド経験もあり、人生活も楽しかった。

同じ17度であるが、オークランドより少しヒンヤリする。ただ快晴で気持ちが良い。秋が深まりつつあり、

乾燥するようになってきているとのこと。オークランドの方が湿気は高いらしい。

大型バス

清潔で快適。今回は21名+2なので、1人2席利用できる。ショルダー型のシートベルト着用義務あり。ガイドも着席が義務。

クライストチャーチ

人口40万人。オークランドと首都ウエリントンに次ぎ、3番目に大きな街。南島では最大都市。1日に四季があると言われ、変わりやすい天候で、一日中、半袖で過ごす人はほとんどいないとのこと。日本人も犠牲になった2011年の大地震は記憶に新しく、大聖堂はまだなお、再建中。今回の滞在期間は、パーフェクトな晴天に恵まれ、街の美しさが、さらに際立ち、印象深く残った。家並は、電柱が地下に埋められ、どこを切り取っても美しい。参加メンバーも街の魅力に惹かれたようだ。QRでシドニー経由、SQでシンガポール経由なども利用できる。

ガイドやすこさんによると、クライストチャーチ住宅事情は、駐車場なしの2LDKの一戸建てで60万ドル~70万ドルでここ10年でかなり値上がりしているとのこと。正直、狭い。民泊などへの投資用として買う人も多く、駐車場があるとさらに高くなるとのこと。安く住める、いい場所など、もはや世界中にないに等しいか。

NZコーヒー事情

ガイドのやすこさんはバリスタでもあり、コーヒーに詳しい。NZはイギリス絡みで元々、紅茶が人気があったが、ここ数年でコーヒーブームが来ているとのこと。NZの代表的なコーヒーは下記の2つ。

- ・ロングブラック:エスプレッソのお湯割りだが奥が深く、お店の味を代表する
- ・フラットホワイト:ラテよりミルクが少なく、泡だてもない、ニュージーランド独自のジャンル

クライストチャーチ市内観光

① MONA VALE GARDEN PARK モナベール

昔の個人邸宅で、グループでも必ず入る名所。庭や川が美しく、黄葉も終わりかけとのことだが、まだなお、美しい。街の中心からは徒歩40分。近くに名門女子高あり、丈の長いスカートの制服姿が愛着を感じる。ハリーポッター的な世界で、イギリス的。授業が終わったようで、自転車にヘルメット装着して帰っていく。NZは16歳から免許取れる(夜間NGなど時間制限あり)ので、車で帰る女子高生もいるが、制服で運転席に座り、発信していく姿は実にアンマッチでずっと眺めてしまう。

② 紙の教会

坂茂がつくった段ボールの教会。大地震で再建中の大聖堂が立つまでの一時的な教会だが、段ボールとはいえ、美しい。中も必見である。

③ BC語学学校跡

地震被害で崩壊した語学学校の跡地で、日本人28人が地震で亡くなる。記念碑があり、皆で1分間の黙祷を捧げる。

④ 追憶の橋と、レーンウェイズ

第一次世界大戦で約10万人がヨーロッパなど戦地に送られたエイボン川にかかるアーチ状の記念碑。ここから街の中心で、ショップとおしゃれなカフェやレストランのあるショッピングピングストリート「レーンウェイズ」。路面電車も走る。リバーサイド・マーケットなど新スポットもあり。「AOTEA GIFTS アオテア」日本人店員のいる有名お土産ショップ。国中に展開。

路面電車(トラム)

今は、観光用に1日乗り放題腕45ドル。1週で50分。車掌のガイディングあり、レストラン・トラムもある

宿泊ホテル「ディステインクション・クライストチャーチ」

1Fフロント・レストラン。部屋(ダブル)は広めで機能的。バスローブあり、ドライヤーあり。

アメニティはシャンプー・コンディショナー・ボディソープのみ。水のコンプなし

*NZは水道水飲める(日本よりやや硬水)

ミニバーあるも、アルコールなく、スパークリングウォーターやジュースのみ。

夕食・朝食は1Fレストラン。

夕食はホテルで「フラワーディナー」

食用の花が各メニューにアレンジされている。

朝食はブッフェで焼きトマトに煮豆が並ぶザ・イギリスの朝食

夕食はニュージーランド観光局と懇談のはずが、参加できなくなるも、特別ゲストとして、元、ラグビー日本代表のトムソン・ルーク(愛称トモさん)を特別ゲストに招いての会食となった(サプライズ登場で我々には事前告知なし)。トモさんは、190センチをこえる大柄で流石の体格。日本語も話し、気さくな性格で写真撮影や色紙にサインなど気軽に応じていた(全員の色紙をご用意いただいた松本社長に感謝)。トムさんは現在、クライストチャーチの郊外に住み、牧場経営と農業の会社経営を行っている。来年のトラベル懇話会新春公演用のビデオメッセージも頂戴した。

<3日目:2025年5月16日(金)>

スケジュール

マウントクックとテカポ湖

ハーミテージで昼食

「フッカーバレー・トラック半日ハイキング」(ほぼ平坦な初級・中級者向けの約3時間ハイク)

→一番人気のハイキングコースだが大雨の影響で、吊り橋がクローズした為、予定を変更し、「ケア・ポイント」のハイキング・コースに変更

ハイキング終了後、テカポ湖へ移動

【夕食】ホテル内レストランにて(3コースディナー)

夜 DARK SKY社による星空ツアーに参加(サミット・エクスペリエンス予定)マウントジョン天文台

宿泊ホテル: ペッパーズ・ブルーウォーター・リゾート(デラックス レイクビュー)

早朝、6時30分に出発し、カンタベリー平野をひた走り、マウントクックへ。
遠くに冠雪した雄大なサザンアルプスの山々、放牧されている羊や牛を車窓に見ながらバスは進む。

羊は、NZで2500万頭飼育され、このカンタベリー平原だけで800万いるそうだ。
ちなみに、羊は、世界で10億頭飼育されているとか。

マウントクックまでは5時間の道のりで、途中2箇所休憩して進む。
2時間後に、小さな町のカフェで小休憩し、トイレ&ティータイム。その後、1.5時間でテカポ湖へ

テカポ湖(善き羊飼いの教会)

教会から湖を少し散策。テカポ湖は風もなく、素晴らしい好天に恵まれ、とても気持ちが良い。
このままマウントクックのハイキングも天気が良いといいのだが、その期待は見事に裏切られる・・・
今晚のホテルはテカポ湖なので、また戻ってくることになる。

マウントクックの高級リゾート「ハーミテージ」でブッフェランチ

「ハーミテージ」はマウントクックの唯一の高級ホテル(同系列でモータータイプもあり)なので、なかなか予約は取りにくい。各旅行会社が指定で販売しているので、「ハーミテージ」の予約が取れる日が、設定日になる。サザンアルプスやマウントクックが正面に見える山岳リゾートホテル。

マウント・クック(アオラキ)のハイキング(ケア・ポイント)

当初予定していた一番人気の「フッカーバレー・ハイキング」は数日前の大雨で吊り橋が通行禁止になり、急遽コースを変更。ニュージーランド人の日本語ハイキングガイド女性と、日本人のハイキングガイド男性の2名のガイドのもと歩く。ガイドは、時折、止まって、いろんな話を聞かせてくれる。天気は悪くないが、凄まじい強風のため、進むのもひと苦勞。普段から風は強いらしい。所要は2時間20分ほどであった。氷河とマウントクックを正面に見ながらずっとまっすぐ歩く。強風で雲も煽られ、絶え間なくマウントクックの頂上をかすめ続けるも、時折、その表情を見せてくれる。寒さもさほどではないものの、体を持っていかれそうになる強風に体力を奪われて、結構きつい。ユニクロのフリースの上にミレーのウインドブレーカーでちょうど良い。コースは平坦で、最後のポイントのところだけ緩やかな坂道になっていて、これを上り切れば、氷河とマウントクックを望む絶景の展望台が待つ。ホテルまでは戻らず、途中までバスが来てくれてありがたい。ハイキングはあまりツアーには入っていないようだが、真冬以外は出来るので、もっと取り入れたい。ベストシーズンは花がたくさん咲く夏だ。

ハイキング終了後、1時間30分かけて、テカポへ戻る

夕食後、星空鑑賞ツアーへ。まだ、続くのか・・・ハードな1日である。

星空鑑賞ツアー(マウント・ジョン天文台)

所要:約2時間。21時20分出発、23時30分ホテル戻り。DARK SKY社の催行。
日本語の星空ガイドと一緒に、ツアー会社のミニバス片道15分で天文台へ。
天文台は山の上であり、テカポを一望できる絶景のロケーションで、テカポの街あかりも美しい。
真っ赤な分厚いジャケット(S,M,L,XL)の用意があり、これがないと凍えて90分は耐えられなかったであ

ろう(なお、事前のインフォはなかった)。また、2時間トイレなし、という案内であったが、実際には天文台に1つトイレはあった。注意事項として、白いライトが禁止される。最初にスマホの画面を一番暗く、フラッシュが点かない設定にする(できていなくて、何人も注意されていた)。バスの車内も、天文台の中も、渡される足元ライトも全て赤外線のような赤いライトになっている。理由は2つ、天文台は観測と撮影をしているので白いライトはNG、次に人間の目を慣らして星空を見やすくする為。90分の鑑賞時間は長いと思われたが、実際には多彩なプログラムで飽きさせない。レーザービームを使った星座の説明から、南十字星の見つけ方、300光年の星が今から300年前に放たれた星を見ているというロマン溢れる説明は素晴らしい。また、覗ける望遠鏡も3つ用意され、宝石のような星々を高性能な望遠鏡で観察できる。月などは望遠鏡の覗き窓を通してスマホに撮影してもらえるサービスもあり、満足度も高い。個人的に気に入ったのは、ベンチにねっ転がってガイドの説明を聞きながら星空を眺められたこと。残念だった点は、月が満月に近く、月あかりが眩しすぎて、星空は少し見にくかった。雲もあったし、山の上から眺める環境など、様々な要素があると思われるが、圧倒的な星空という訳にはいかなかった。モングルの地平線まで埋め尽くされる強烈な星空ではなかったが、多彩なプログラムは満足度が高い。この後、さらに2台の鑑賞ツアーが催行されるということで(日本人ではない)、星空ガイドたちの夜はまだ長そうだ。星空鑑賞ツアーを取り入れているツアーもまだまだ少ない。帰る時間は遅く、見れなかった時のリスクもあるが、ロマンはもっと売れるはず。

テカポ宿泊ホテル：ペッパーズ・ブルーウォーター・リゾート(デラックス レイクビュー)

ここもマウントクック同様、ホテルが少ない。ここは、広い敷地にコテージ的に部屋が点在しているので、フロントから離れる場合もある。フロント棟にレストランも併設。レイクサイドなので、湖と山が美しい。アメニティは、やはり最低限で、シャンプー類のみ。歯ブラシなどはなし。水コンプもなし。標高が高く、寒いエリアなので、お風呂場に暖房やオイルヒーターあり。冷蔵庫は空

<4日目:2025年5月17日(土曜) >

スケジュール

クライストチャーチ空港へ

途中、クライストチャーチの老舗ホテル「The George」にて昼食

クライストチャーチ空港発、オークランドへ

オークランド到着、オールブラックス(の歴史・文化を体感頂く)・エクスペリエンス

【夕食】海鮮レストラン(Harbourside Ocean Bar Grill)にて4コースディナー

オークランド泊:JWマリオット・オークランド(デラックスルーム)

今日も早い朝が明ける。

雲にピンク、オレンジと朝の日差しが色をかえ、美しい朝焼けの空が広がり、実に美しい。

朝食も同じレストランでブッフェ。昨晚と同じ、イギリス朝食で変わり映えしない。

また今日も移動の1日である。少し、解説を加えよう。一般のツアーでは、オークランドを起点にしないで、ロトルアークライストチャーチ間をAIRで移動し、バス移動を避ける。もちろん、連泊もあり、体を休めながら旅を進める。トラベル懇話会の視察旅行では、メンバーが参加しやすいように、短いコースを作

成し、それを皆で実施した後に、長いコースの延泊を加える為、どうしても無理が生じる、という訳である。仕事・視察なので、ハードスケジュールは仕方なく、参加メンバー皆が嬉々として工程をこなしていくのはロールプレイングゲームのリアル版といったところか。一般のツアーでは時差ボケや移動の疲れが生じる2日目をハードにはしていないのは業界の常識だが、一応、蛇足として書き足す。

余談となったが、クライストチャーチへ戻る。昨日とは異なる道を通り、トイレで賞をもらったという台湾人の経営する休憩施設(お土産、カフェ)で小休憩。*アッシュバートンの手前、ホテルから2時間どうやって手を洗っていいかわからないトイレは開放的でガラス張り、アルパカに餌もあげられる。お土産コーナーでは「頭がよくなる」、「関節痛が治る」、というサプリメントばかり気になり、パンフを手にしてしまう、全く歳をとったもんだ。

さらに1時間15分走り、ようやくクライストチャーチに戻り、50年の歴史がある老舗ホテル「The George」でランチ。日本人スタッフが出迎えてくれる。ニュージーランド人が作る日本酒「全黒=オールブラックス」の作り酒屋も松本さんの知人ということで賞味させてくれる。美味なり。サービスも日本人ハーフのイケメンが日本語で接客してくれる。

昼食後、空港へ。空路、オークランドへ

NZ-554 17MAY CHC/AKL 15:05/16:30 所要 1 時間 25 分 機材 A320-200

往路と同じく、1クラス。飲み物とクッキーあり(NZで有名なクッキータイム)。

オークランド着後、観光施設「オールブラックス・エクスペリエンス」へ

本来、クローズの時間だが、特別に遅くまで対応してもらえる。オールブラックスのレジェンド、イアン・ジョーンズさんが出迎えてくれ、記念撮影やサインに笑顔で応えてくれる(これも今回の特別手配で通常の観光ではない)。エクスペリエンスの内容も素晴らしい。通常90分、一度に24名まで、決められた時間に案内人のもと、皆で歩きながら巡って体験する。

オールブラックスの歴史説明→映像鑑賞→チーム対抗ゲーム→ロッカールーム体験→スタジアム入場体験→ハカ鑑賞(大モニターと音響効果で感動的)→キック体験→ショップ

とにかく、見せ方が素晴らしく、勉強になる。Museumではなく、experienceなのだ。日本の観光施設も訪れ、「体験」すべき!

夕食はハーバーサイドのレストラン「Ocean Bar Gril」で海鮮ディナー

スープ・お刺身・伊勢海老・デザートの4コース。伊勢エビは焼き、蒸し、チーズ&マヨネーズ焼きと3種類から調理方法を選べる。5日間のAコースは最後の晩となるので、1人ずつ旅の感想を発表。ホテル到着は22時かつ、さらに、ホテルラウンジで2次会も開催。とにかく、旅は、元気でないと続けられない。

「JWマリオット」

ハーバーエリアの高級ホテル。アメニティも豊富(バスソルト、歯ブラシ、カミソリ、綿棒、コットンなど揃っている)バスローブ、ふわふわスリッパあり。ミニバーにはアルコールあり、コンプのミネラルウォーターもあり、この視察で初めて水が提供された。

<5日目:2025年5月18日(日曜) >

スケジュール

ワイトモ鍾乳洞

バーベキューランチ

ロトルア着

夜は、ハンギディナーとマオリショー

宿泊ホテル: ノホテル・ロトルア (レイクビュールーム)

朝食はそうめん・蕎麦・白米・おかゆもあり、充実。流石のマリオット。

朝のレストランから日本人スタッフもいる(合計4名の日本人がこのホテルで働くとのこと。1名は20年ずっとこのホテルでブランド変わってもい続けていて珍しい)

朝7時に5日間のA班11名が空港へ向け、出発、帰国の途へ。

B班は、引き続き、北島視察を続ける。

まずは、バスで3時間かけワイトモ鍾乳洞へ

途中、1箇所休憩

ワイトモ鍾乳洞

入り口付近から少しひんやりする。通常の徒歩とボート観光以外にも、ウエットスーツを着て浮き輪に乗りながら洞窟を探検するプランなど、いくつかプログラムあり。相変わらず、アクティビティの種類が豊富である。鍾乳洞の中は、写真・ビデオ禁止、大声で話すのも禁止、静かに観光しなくてはならない。話すのは、ガイドのみ。

最初は、歩きながら鍾乳洞の発見や様々な場所の説明を聞きながら巡り、最後にハイライトであるボートに乗船して、ツチボタルの鑑賞(ボートは特に厳しく、静かにしなくてはならない)。

真っ暗闇の中、ボートはゆっくり進み、上を見る。天井は土ボタルで埋め尽くされ、淡く眩い光を放つ。土ボタルの光は青白く、人工では作れないという。人間が作るのもっと白いか、もっと青くなる。その柔らかくありつつ、しっかりとした光の洪水を眺めながら、ボートはゆっくり、ゆっくりと進む。歓声を上げて、感動を共有することも許されない。ただ、声をひそめ、息を呑み、通常の暮らしでは見ることの出来ない体験を噛み締めるのみだ。

初めての土ボタル鑑賞は素晴らしきう、個人的には、デカポの星空より美しいと感じた。

尚、土ボタルは、日本の蛍と全く異なる虫で蝉より儂いその一生をガイドが教えてくれる。

鍾乳洞から10分で、BBQランチのレストランへ

サラダなどブッフェコーナーと、BBQコーナーでスタッフが焼くメインのお肉のチョイス。牛、チキン、魚から選ぶ。牛は焼き具合の好みを伝え、チキンは照り焼きで食す。ニュージーランドのお肉は、油の差しがありなく、完全な赤肉なので、レアがおすすめ。ミディアムとかミディアムレアだと、しっかり火を通してしまふ。また、レストランによっては、少ししか火を通さない、レアのレアの焼き方「ブルー」も選べるとのこと。今回は食べる機会がなく残念。

昼食後は、また2時間かけてバスの旅。マオリの街ロトルアへむかう。

車窓風景は、牧場また牧場と、どこまでもニュージーランドらしさが続くが、北島は南島より降水量が多いので、緑の色が濃い。またサザンアルプスのような高い山の景色がないので、遠くどこまでも広がる緑のオンパレードとなっている。また、大都市オークランドを抱える為、羊よりも牛の放牧が多く、ビーフの方がより好まれているらしい。粉ミルクも、NZの一大産業なので、牛の牧場が多くなる。羊より、牛の方が儲かる訳だ。なお、NZは人口が少ないため、産業は全て、海外への輸出を前提にしているそうで基本がグローバル展開だ。

ロトルアは、白い煙があちこちで立ち上る温泉地帯。スパハウスがあり、温浴体験も可能。水着をきて男女混浴で入る。温度の異なる浴場が数箇所あるような施設で、レンタルタオルやレンタル水着もあり。

ミタイ・マオリビレッジ

マオリのショーと食事を楽しむ。17時ホテルピックアップ、21時すぎにホテルへ戻る長い拘束時間が欠点。送迎もミタイの混乗バスで、様々なホテルでピックアップしながら行くスタイル。

到着後、18時までマオリのMCの話聞きながら待つ。その後、森林ウォークを楽しみながら、松明で照らされたボートに乗ったマオリの登場を見たのち、ショーの会場へ。男女総勢15名ほどのマオリ族のダンスや歌、ハカや儀式などを観賞。ショーは40分。その後、ハンギ(地熱を利用したマオリの蒸し料理)ディナーへ。ラムやチキン、ジャガイモ・サツマイモが巨大な鍋で蒸されているところも見せてくれる。その料理をブッフェスタイルで頂く。食事後は、マオリMCの質疑応答コーナーがあるのだが、今回のMCはたくさんの質問を受け、丁寧すぎる回答をたっぷり45分続けたので、この時間が非常に苦痛であった。15分ですめば楽しく帰ることができたのだが、何事も適当が肝要である。

ロトルア:ノボテルホテル

ロトルア湖から徒歩3分の中級ホテル。部屋はそこそこ広く、NZでは部屋はどれも広く快適である。オークランドとは違うので、ここもアメニティは最低限。シャンプー・コンディショナー・ボディソープ以外は何ものなし。冷蔵庫も体で、水のサービスもなし。近くの農場で採れたミルクが冷蔵庫にサービスされていたが。

<6日目:2025年5月19日(月曜) >

スケジュール

ロトルア観光

アグロドームにてシープショー

テ・ピア観光

観光終了後、スカイライン(展望レストラン)にて昼食

昼食後、オークランドへ

【夕食】スカイタワー内レストラン ORBIT 360° ※スマートカジュアルが必要

アグロドームでシープショー

45分のショーが素晴らしい。500名収容のホールで19種類の羊を一堂に見れる。手際の良い羊毛刈り、乳牛の乳搾り体験(客席から)、子羊の乳飲み合戦、牧羊犬の羊ならぬアヒル追いなど実に多彩なプログラム構成になっている。また、座席に各国語の同時通訳ヘッドホンもあり、LIVEショーをより楽しむことができる。ショーの後は、ステージに上り羊や牧羊犬たちと記念写真も出来るし、触れ合うことができる。羊が実に可愛い。

その他、外の牧場で牧羊犬が羊を実際に追うデモンストレーションも見学できる。ロトルア以外や南島でも羊の毛刈りショーはあるらしいが、アクロドームが最も充実しているとのことで、日本人グループにお勧めである。もっと時間があれば、+1.5時間でアクロドームの中の農場をトローリーで巡るファームツアーもあり。

テプイア

キーウィ、間欠泉、マウイ文化(クラフトも)が1箇所体験できる複合文化施設。所要1時間30分で、勝手に施設見学はできない。必ず、現地ガイドの案内で施設を巡る。

マウイ文化・建物の紹介→キーウィ・バードを見学できる施設(3箇所、お父さん・お母さん・子供)→間欠泉→マウイクラフト学校→ショップという流れ

昨晚のミタイ同様、マオリの歌や踊りを見たり、ハンギの食事をすることもできる。人間が入るまでは2000万匹！生息していたものの、現在6万匹に減っている飛べない鳥キーウィに出会えたのは貴重な機会だった。夜行性で4時間しか起きていない為、動いているのさえ貴重なようだ。今回はラッキーなことにお父さん・お母さん・子供の3匹全てが動いている姿を鑑賞できた、館内は暗室になっていて大きな声も禁止。夜に明るく擬似的な日中を作り、来館時間に合わせて活動させている。

間欠泉もなかなかの迫力で、噴き上げている瞬間をたくさん望めた。園内にはマヌカの木がたくさんあり、マヌカ・ハニーの話がいかにか貴重なものか話も聞けた。その他、マオリ文化継承の為の学校を併設しておりその活動の紹介や、案内嬢が選ばれしマオリでキーウィーの羽の衣装を纏うことのできる特別な存在と知り、2日目のトンプソン・ルーク同様に、新春セミナーのオープニングビデオの録画撮りの協力を得る。

スカイライン(ケーブルカー&展望レストラン)

ケーブルカーに乗り、山の上のレストランへ。ロトルア湖を一望できる絶景レストランで、ブッフェのみだが、種類が実に豊富で味噌汁もあり、味もよくムール貝や肉類も好評であった。NZのレストランはどこも、ワインリストが豊富。日本だとグラスで飲めるのはハウスワイン1つだったりするが、白も赤も、ぶどうの種類毎にグラスもボトルも頼むことができて実に羨ましい。

ワインテイスティング

スカイラインの上では、様々なアクティビティあり。ジップラインに、ルージュまであり体験ものが充実。レストラン奥には、ワインテイスティングがあり、3種18ドル、5種24ドルでNZのブドウの品種の違いを楽しむ。今回は、白がソーベニヨン・ブランとピノグリ、赤がピノ・ノワールの3種をテイスティング。もちろん、ワインも購入できる。

オークランドへ

1度の休憩後、オークランドへ戻る。ホテルは同じ「JWマリオット」。オークランド名物の朝夕の渋滞に少しつかまるも順調に進みホテル到着。

お土産屋「OKギフト」

故・大橋巨泉が創業したことで有名なお土産屋がホテルから徒歩5分のハーバーサイドにある為、夕食前に皆で行ってみる。25%OFFのクーポン頂き、少し買い物をする。近くに「アオテア」やスーパーもある。

ORBIT 360° (スカイタワー内展望レストラン)

ホテルから歩いて10分、スカイタワーへ。オークランドのランドマークであるスカイタワーは、展望台を歩くスカイウォークや、バンジージャンプのようなスカイジャンプもある。ちなみに、バンジージャンプはNZが発症であり、どこでもアクティビティを作るのが好きな国民だと感じる。スカイツリーや東京タワーでバンジーやるようなもので日本では1000年経っても実現していないだろう。タワー内はホテルやカジノもあり。タワー内のホテルは4つ星でシャワーオンリー。隣のグランドホテルが5つ星だそう。さて、レストランへは地下1階から専用のエレベーターで52階へ向かう。速い。シンドラー製。オークランドの夜景が広がるレストランは名前から想像できる通り、回転式の展望レストラン。約1時間で1周する。海と夜景が美しい。食事もチョイスありの3コースで美味しかった。ワインも毎度、選択肢が多く満足度は高い。

オークランド宿泊: JWマリオット

4泊目と同じホテルなので、説明は割愛

< 7日目: 2025年5月20日 (火曜) >

スケジュール

NZ099便にて帰国

成田空港到着、解散

NZ-099 20MAY AKL/NRT 10:15/18:15 所要 11 時間 00 分 機材 B777-300ER

帰国便も同じ機材。食事は日本食はなし。離陸後、しばらくして昼食。昼便なので、フルフラットにして眠る人は少ないが、こちらは睡眠不足で、3時間ほどベッドにして横になる。18時(日本時間15時)過ぎから夕食でちょうどいいタイミング。WIFIが使えるので仕事が捗る。時間を見て機内でNEX予約。

今回も実に学びの多い研修となった。まず、トラベル懇話会では手配の質とガイドの質が極めて高い。知への欲求が満たされ、日本の人に来てもらい、異文化を体験して欲しい、と素直に思えるのである。私はまだ、会員となって歴史が浅く、海外研修は昨年のもンゴルから2度目だが、今回も貴重な機会を得た7日間となった。長いコースを選んだのは、昨年のもンゴルで短いコースに参加し、ゴビ砂漠へ行くチャンスを自ら逃し後悔したからだ。ミルフォードサウンドやワイナリーホビット村など訪れるべき場所はまだまだ多く、日程的にはどれだけあっても足りない。2日間の不在で困る周囲のスタッフがいるのも事実であろうが、日本で過ごす2日間と、海外研修で過ごす2日間のどちらが価値あるものかを天秤にはかり、その錘の行方を慎重に見守りながら、今後もロングコースをチョイスするだろうと想像する。最後に、企画責任者の美甘さんと手配責任者の松本さんに深く感謝し、レポートを締めたい。